

新・誕生石物語

監修：朝明治堂 望月英樹 全国宝石卸商協同組合



誕生石は幸せのおまじない			大切な人と自分を守ってくれる29種の宝石	
月	誕生石	イメージ	キャッチコピー	誕生石の物語
1月	ガーネット		多くの実がなり行いが成就する子孫繁栄のシンボル。	ガーネットは実の色や形状が似ているため、和名でザクロ石と呼ばれています。ザクロには多数の実ができるため、子宝の象徴とされています。1月は1石だけですが単独で輝いている誕生石とも言えます。色は赤色のアルマンディン、赤紫色のパイロップ、オレンジ色のスベサルティン、緑色のツァポイライトなど様々な色があります。また緑色のデマントイド・ガーネットはダイヤモンドの様に輝きが強く、馬の尻尾（ホーステール）のような内包物が見られ、ヨーロッパでは馬は縁起が良い象徴とされています。
2月	アメシスト		自制心や反省する心をもつ身に着けると酔いにくいとされる。	アメシストは紫色の石英のことであり、和名では紫水晶と呼ばれています。またギリシア語で酔わないを言う意味する（amethystos）に由来します。ギリシャ神話で、酒の神バックスはお酒に酔ってしまい誰かを襲おうとしていたところに、美しい少女アメシストが近づいてきました、ところが襲われる瞬間に月の女神が気付き、白い水晶に変えてしまいました。酔いがさめたバックスはこの光景を見て、自分自身を反省し、白い水晶となってしまったアメシストに赤ぶどう酒を注ぐと美しい紫色の水晶に変わったと言う逸話が残っています。身に着けるとお酒に酔いにくいとされています。
	NEW クリソベリル・キャッツアイ		金色の輝きが目（運）を開く猫目石の王様。	クリソベリル・キャッツアイは和名で猫目石と呼ばれます。シャトヤンシー（キャッツアイ効果）を示す宝石は数多くありますが、最も美しく高価であり、猫の目に最も似ているのがクリソベリル・キャッツアイです。蜂蜜黄色（ハニー・イエロー）が最良の色合いとされています。2月22日は日本の猫の日であり、2月17日はヨーロッパで多くの国で世界の猫の日（World Cat Day）となっています。また目（芽）が出るなどいい意味もありますので、2月の誕生石となりました。運が開ける宝石ともいえます。
3月	アクアマリン		船乗りたちのお護り旅の安全を約束する。	アクアマリンはラテン語で水を意味するアクアと海を意味するマリンに由来し名づけられました。古くから人魚の宝物と言われ、古代ローマ時代には航海を安全に導き、旅の安全を約束する宝石として身につける人が多く、船乗り達の御守りとされてきました。アクアマリンは美しい海がそのまま石となり身に着けられるジュエリーに変わってくれた宝石のように感じられます。深く濃い青色で良質なものをサンタマリアと呼ばれることもあります。
	サンゴ		蒼い海から贈られる赤い宝物天使の肌色。	サンゴは高知県沖、小笠原諸島沖、沖縄県沖など日本でもとれる貴重な宝石です。地中海やミッドウェー沖でも産出されますが、日本産の濃い赤色（血赤サンゴ）が最高品質とされています。日本では古くから愛されており、様々な装飾品が作られてきました。桃色のサンゴはその色合いからエンジェル・スキンと呼ばれ人気があります。枝サンゴの置物は拝見という名称で呼ばれています。
	NEW ブラッドストーン		キリストの血液から生まれた血の巡りを良くする太陽の宝石。	ブラッドストーンは赤い斑点模様がある濃緑色半透明から不透明のジャスパーの事をさします。十字架に架けられたイエス・キリストの血がジャスパーの上に垂れてこの石ができたと言う逸話が残されています。また太陽を呼び戻す石とも呼ばれています。特にヨーロッパで人気があり3月の誕生石として定着していたため、日本でも3月の誕生石に追加されました。
	NEW アイオライト		進むべき道を示してくれるヴァイキングの羅針盤。	アイオライトは濃青色のコーディエライトの宝石名です。コーディエライトはフランスの地質学であるビエール・ルイ・アントワーン・コルディエに因んで名付けられました。彼の誕生月が3月であるため、3月の誕生石となりました。強い三色の多色性があり、方向により青紫色、灰黄色、淡青色がみられます。その昔ヴァイキングがこの石を用いて、曇りの日でも太陽の位置を知ることができたと言われ、ヴァイキングの羅針盤とも呼ばれています。
4月	ダイヤモンド		永遠の輝きを持つ何事にも動じない心を持つ強い意思と明るい未来を後押ししてくれる。	ダイヤモンドは言わずと知れた宝石の王様です。強い虹色の輝きを放ち、ダイヤモンドより硬いものはこの地球上には存在しません。そのため、ギリシア語で征服されないという意味を持つadamasに由来します。ダイヤは無色だけではなく、ピンク色、黄色、オレンジ色、青色、緑色、茶色、黒色など様々な色が存在します。窒素を含むと黄色となり、ホウ素（ボロン）を含むと青色になります。希少で人気の高いピンク色のダイヤモンドを産出したアーガイル鉱山が閉山してしまい、入手困難となりました。
	NEW モルガナイト		桜の花の色合い先見性をもつ仕事（学業）を良い方向へと導く。	モルガナイトはアメリカのモルガン財閥の創始者で、有名な宝石コレクターであるジョン・ピアポント・モルガンに敬意を表して名づけられました。彼の誕生月が4月であること、また日本を代表する桜の花の色合いを持つため4月の誕生石となりました。モルガナイトは鉱物名ベリル（緑柱石）のピンク色または淡い紫色の変種です。まるで水分を含んでいる様な透明感のある美しい宝石です。比較的大きな石も流通しています。
5月	エメラルド		クレオパトラが最も愛した宝石眼を癒してくれるエメラルドの柱の写真を使う。	エメラルドは緑色のベリルの事です。結晶の形が柱状に成長するため和名で緑柱石と呼ばれています。エメラルドは古代から現代まで世界中で愛されている宝石です。紀元前には既に宝石として取引されていたと言われており、エジプトにはクレオパトラ女王が所有していたといわれるエメラルド鉱山が残っています。エメラルドは様々な効用があるとされています。特に緑色が目を癒すといわれています。一般にコロンビアで産出されるものが最良とされていますが、アフリカのザンビア産、ブラジル産も人気があります。エメラルドは内容物（インクルージョン）に産地の特徴がある宝石です。
	ヒスイ		強く硬い意思を持つ日本の国石。	ヒスイは日本にとって非常に重要な宝石です。縄文時代から勾玉や様々な装飾品として加工されてきました。韌性（粘り強さ）が宝石の中で最も高く、ダイヤモンドの硬さとは異なる強さを持ちます。そのため古代ではヒスイの斧などが使われていました。淡い緑色はランダーヒスイと呼ばれ、またアイスジェイドと呼ばれる白く半透明なヒスイも存在します。半透明で美しい緑色のヒスイはインペリアル・ジェイド（ろうかん）と呼ばれています。2016年にヒスイが日本の国石に選定されました。
6月	真珠		世界に誇れる日本の宝の海から生まれた神秘の輝きを持つ宝石。	真珠は日本で最も馴染みのある宝石です。御木本幸吉がアコヤ貝による商業的な真珠の養殖に成功したため、我々も身に付けられる宝石となりました。それ以前では海中にある貝から偶然とれたものを使用していた為、驚くほど高価でした。鉱物とは異なる有機起源宝石ならではの神秘性を有しています。真珠特有の「テリ」と呼ばれる光沢は、アラゴナイト結晶の積層構造が生み出す「光の干渉作用」によるものです。有機物である真珠の美しさを長く保つためには、熱・乾燥・酸等に注意し、大切に保管する必要があります。
	ムーンストーン		煌々と輝く月のような存在月からこぼれ落ちた雫（しずく）。	ムーンストーンはシラー効果あるいはシーンと呼ばれる月光のような青白い閃光を放つ長石の事です。和名は月長石です。ムーンストーンは煌々と夜に輝く月のように人を魅了できる宝石ともいえます。結晶内部の化学組成の異なる層が光を散乱させることで閃光を発生します。レインボームーンストーンと呼ばれる虹色のイリデッセンスを示すものは斜長石の一種のラブラドールライトです。
	NEW アレキサンドライト		色が変化する宝石の最高峰。二面性をもつ宝石冷静、熱烈、両方を併せ持つ。	アレキサンドライトはクリソベリル（金緑石）の変種です。太陽光下で緑色、暖色照明下では赤紫色に変化します。変化が明瞭なほど価値があるとされています。1842年にロシア皇帝アレクサンドル2世に敬意を表して名付けられました。ブラジル産が最良とされていますが、鉱山が枯渇してしまい、良質なものは入手が困難になりました。インド、スリランカでも美しい物が産出されていますが、ブラジル産を好む人が多いです。ブラジルで新しい鉱脈が発見されることを世界中の人々が待ち望んでいます。

7月	ルビー		古くから最も愛されてきた宝石。 真実の愛の象徴 燃えあがるような深紅の赤色。	ルビーは鉱物名コランダム <small>ルビー</small> の赤色の宝石です。ルビーは歴史が古くラテン語で赤を意味するルベウス <small>ルビー</small> (rubeus)に由来しています。また古代ギリシャ時代では燃える石炭と呼ばれていたこともあったそうです。古代の人々から最も愛されてきた宝石です。現在でもカラストーンの中で一番人気です。シルクのような針状の内包物により美しい6条のアステリズム <small>ルビー</small> (スター効果)を示すものはスタールビーと呼ばれます。また産地により色合いがわずかに異なるため、産地に注目して揃える楽しみもあります。ミャンマーのモゴック地区で産出される美しいビジョン・ブラッド <small>ルビー</small> (鳩の血)と呼ばれるルビーは最良のものとして知られています。
	NEW スフェーン		夏の森、秋の森、2つの季節の色合いもつ。 ふたつのもを固く繋ぎ合わせる。	スフェーンは鉱物名タナイト <small>スフェーン</small> と呼ばれます。結晶の形がくさび状になるためギリシャ語のくさびを意味するsphenos <small>スフェーン</small> に由来し、和名では楔 <small>スフェーン</small> (くさび)石と呼ばれています。楔はふたつのもを固く繋ぎ合わせる絆の意味も持ちます。スフェーンはマーク・オーガスト・ビクテによって新種の鉱物として初めて認識され、彼の誕生月が7月であること、スフェーンは輝きが強く日本の夏の森のような色合いを持つことから、7月誕生石となりました。輝きがある黄褐色のスフェーンは秋の森を連想させてくれます。スフェーンはふたつの季節の色合いを持ちキラキラと虹色に輝く美しい宝石です。
8月	ペリドット		夜会のエメラルド。 宇宙にも多く存在する太陽の宝石。	ペリドットは鉱物名オリピン <small>ペリドット</small> です。和名ではカンラン石と呼ばれています。ペリドットは古代から愛されてきた宝石で、エジプトでは太陽の宝石と呼ばれており、ファラオたちの王冠や装飾品に使用されていました。中世ヨーロッパ時代ではろうそくの明かりでも鮮やかな緑色をはっきりと見えるため、イブニング・エメラルドと呼ばれ愛されてきました。また宇宙にも存在し、石鉄隕石などに含まれることもあり、ETペリドットと呼ばれコレクターには非常に人気があります。近年ではハワイ島で火山が爆発しペリドットが大量に降ってきたことが知られています。
	NEW スピネル		美しいものにはトゲがある。 ルビーやサファイヤと見紛う美しい宝石。	スピネルは結晶が八面体で先端が尖っていることからトゲを意味するラテン語のspinella <small>スピネル</small> に由来し名付けられました。和名は尖晶石です。美しいものにはトゲがある。スピネルは古くからルビーやサファイヤと外観が似ており、産出場所も同じためよく混同されてきました。スピネルはカラーバリエーションが豊富で、アステリズム <small>スピネル</small> (スター効果)やカラーチェンジなどがありこの点もコランダムに似ています。イギリス王室の至宝の王冠にセットされた黒大天使のルビーは、調査の結果ルビーではなく赤いスピネルと判明した時は皆驚いたそうです。昔のプロでも判別が難しかった宝石です。
	サードオニクス		オレンジ色と白の美しいコントラスト。 内面の美しさが伝わる宝石。	サードオニクスまたはカルセドニーの一種です。鮮やかな橙赤色の地に白色の縞状模様があるものをサードオニクスと呼びます。和名で紅縞瑪瑙 <small>サードオニクス</small> (べにしまめのう)とも呼ばれています。縞目模様が爪の白い部分と似ているためラテン語で爪を意味するオニクス <small>サードオニクス</small> onyxが語源となっています。サードオニクスは歴史が古く、古代ローマ時代から近代までカメオなどの装飾品として好まれていました。
9月	サファイヤ		古代から現代まで愛され続けている宝石。 美しい色合いにより心が落ち着く。	サファイヤは鉱物名コランダム <small>サファイヤ</small> の赤色(ルビー)以外の総称で、様々な色合いがあります。サファイヤの歴史は古くラテン語の青色を意味するsapphirus <small>サファイヤ</small> に由来しています。青色のサファイヤはもちろん、ピンクと橙色の中間的な色相のものはパパラチア・サファイヤと呼ばれ、特に日本では人気があります。またピンクサファイヤ、ゴールデンサファイヤ、オレンジサファイヤや6条の線がでるスターサファイヤなどがあります。産地もルビーと同様、色々な産地があるので産地ごとに集めてみるのも楽しみのひとつだと思います。
	NEW クンツァイト		守ってあげたい魅惑の宝石。	クンツァイトは鉱物名スポジュームの淡いピンク色から紫色の変種です。濃いものには方向によって紫色、ピンク色、無色の多色性を見ることができます。クリアで鮮やかなピンク色は人々を魅了させる事のできる宝石です。クンツァイトの名称は近代の誕生石を作成した著名な鉱物学者ジョージ・フレデリック・クンツに因って名づけられました。彼の誕生月が9月なので、9月の誕生石となりました。割れやすく光や熱で退色しやすいため、大切に保管する必要があります。守ってあげる宝石、守らなければいけない宝石とも言えます。
10月	オパール		浮遊する神秘的輝きは唯一無二。 個性 的、多方面に才能を発揮。	オパールは石を動かすとキラキラと浮遊する虹色の輝き <small>オパール</small> (遊色効果)をもつ特徴的な宝石です。また水分を多く含む宝石としても知られています。ホワイトオパール、ブラックオパール、ボルダーオパール、ウォーターオパール、メキシコオパール、ハイドロフェーンオパールなど様々な種類のオパールが存在し、ひとつひとつ集める楽しみもあります。個々の輝きと同じものがないとと言われるほど多彩な色合いを持つ宝石です。
	トルマリン		誰もが自分の色に出会えるカラーバリエーション最多の宝石。	トルマリンの名称はさまざまな色の石を意味するシンハリ語のtourmalini <small>トルマリン</small> に由来し、宝石の中で最も色のバリエーションが豊富な種類です。トルマリンは単一の鉱物名ではなく、グループ名です。結晶構造は同じですが化学組成の違いで30種以上の鉱物種が含まれます。和名は電気石と呼ばれています。熱や圧力をかけると帯電する性質があります。一度見たら忘れられない美しいネオンカラーのバイバトマルマリンや、鮮烈な赤色のルベライト、深い藍色のインディコライト、ウォーターメロンなど多彩な色合いがあり、好みの色が選べる宝石です。
11月	トパーズ		心の秘めた灯(ともしび)暖炉で温かく燃え上がる炎の色合い。 探求心が強く燃える心を持つ。	トパーズの歴史は古く紅海のトパソス島Topasos <small>トパーズ</small> に因む説と、輝きが強いためからサンスクリット語で火を意味するTapa <small>トパーズ</small> と、ギリシャ語で探し求めるを意味するTopazos <small>トパーズ</small> に由来する説があります。トパーズは一般的に黄色が良く知られており、和名では黄玉と呼ばれています。黄色以外にもブルー、ピンク、ゴールデン、シェリーカラー <small>トパーズ</small> (インベリアルトパーズ)などがあります。特にインベリアルトパーズは稀産です。
	シトリン		果実のシトロンに由来 マデイラ島のワインの色合いを持つ。 天然の希少な鉱物。	シトリンは黄色の石英の事であり、和名で黄水晶と呼ばれています。シトリンの歴史は古く、果実のシトロン <small>シトリン</small> (citron)の実に由来していると言われていました。ほとんどのシトリンは通常アメシストを加熱処理をすることによって黄色に改変されており、天然の色のシトリンは大変貴重です。商業的にレモン・クォーツと呼ばれている黄色い水晶がありますが色調が異なりシトリンとは呼ばれません。トパーズに見かけの色や外観が似ているためシトリン・トパーズと誤った名称と呼ばれていたことがあります。また美しく濃い色合いのものをマデイラ・シトリンの名で流通されています。
12月	トルコ石		古代エジプト時代から愛されている淡青色。 過去へと誘い旅人の安全を願う宝石。	トルコ石は鮮やかな青色が神秘的であるため5000年前頃からエジプト人に特に好まれました。コマドリの卵の色に例えられる淡いブルーの色合いが特に喜ばれたとされています。トルコ石は様々な装飾品として使用されてきました。その昔ペルシャで産出され採掘されたものがトルコを経由し、はるばるヨーロッパに運びこまれたため、トルコ石と呼ばれるようになりました。
	ラピスラズリ		フェルメールなどの画家から愛されてきた瑠璃色。 空の石、天国の石とも呼ばれる。	ラピス・ラズリは人類が利用してきた最古の鉱物で、7000年前から美しい鉱物として使われてきました。美麗な濃青色が特徴的できらきら輝くバイライト <small>ラピスラズリ</small> (黄鉄鉱)が含まれていることもあります。和名では瑠璃 <small>ラピスラズリ</small> (るり)と呼ばれており、高級顔料としても有名です。最良なものはウルトラマリンと呼び、著名な画家たちから愛されてきました。空の石、天国の石と言う意味をもつと言われており、ツタンカーメンの黄金マスクにもラピス・ラズリが贅沢に使用されています。
	NEW タンザナイト		キリマンジャロの夕暮れ。 20世紀における宝石界の大発見。	タンザナイトは鉱物名ゾイサイトの青色の宝石名です。1967年にタンザニアで発見され、国の名前にちなんでティファニー社がタンザナイトと名付けました。またタンザニアのメラニ鉱山でしか産出されず、20世紀に発見された宝石のなかで、最も人気となった新しい宝石です。見るものを魅了させる美しい青紫色、品があり落ち着いた色合いが特徴的です。アフリカ最高峰のキリマンジャロの夜の始まりの色合いをもち、またキャッツアイ効果を示す美しいタンザナイトも存在します。
NEW ジルコン		風を信じる子と書いて風信子。 古代を感じる最古の鉱物。	ジルコンの名称は金色を意味するベルシャ語に由来するといわれています。黄色～赤色のジルコンは色が花のヒヤシンスと似ているため、和名では風信子 <small>ジルコン</small> (ヒヤシンス)石と呼ばれています。屈折率が高く、輝きが強いため古くからダイヤモンドの代用品として利用されてきました。またキュービック・ジルコニアとは別のものです。近年ではブルージルコンの人気が高く注目されています。約4億年前のジルコンがオーストラリアで発見され地球上で最も古い鉱物と言われています。他にも色の種類が豊富で今後、新たに人気が出てくる宝石と期待されています。	